

科目名	新興国市場と地域企業 Emerging Markets and Japanese Local Companies		選択	2 単位
学期・曜日・時限	春・火・5 限	-	-	-
担当教員名	オムニバス	e-mail	-	
講義形式	ハイフレックス（教員は講義室から講義を実施します） ※対面履修生は全回講義室から参加			
<p><講義の概要と目的></p> <p>日本と比較的近い東南・北東アジア地域の国際的な現場で存在感を増す「新興国」市場の現状、および、将来の展望を把握すること、そして、その地域に於ける地域企業の活動の現状についての理解を深める。そのために、新潟を中心としてグローバルなフィールドで活動している地域企業の経営者や企業家、或いは研究機関に所属する研究者など専門家を、オムニバス形式でゲストとして招き計 5 名に講演をいただく。ゲストごとに、担当となる本学教員のコーディネートにより、その内容を踏まえ各国のビジネス現場で取り組まれている課題をケースとしてクラス討議し、地域企業の新興国事業での問題解決の方法論を創造的に習得することを目的とする。</p> <p>なお、初回と最終回は担当教員による講義全体の趣旨説明と総括を行い、2 回目にはゲストスピーカーによる本科目での議論の基調となる部分の講義を行う。</p> <p><到達目標></p> <p>新興国での地域企業の事業活動について現場に近いゲストから学ぶ。講義からの学びを経営学的に整理する。また、現実の地域企業の国際経営の課題の企業家的な解決策の考究を経験する。</p> <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>下記講義計画にあるように、第 2 部から第 5 部まで 4 名のゲストによる講演（各 1 週目）を踏まえたグループ討議を実施し（各 2 週目）、討議結果の発表とそれに対するクラス討議をおこなう（3 週目）。</p> <p><ゲストスピーカー招聘></p> <p>計 5 名を招聘する。詳細は下記「講義計画」を参照。</p> <p><講義計画>※各テーマは暫定であり、変更の可能性あり。</p> <p>第 1 部：イントロダクション</p> <p>1 回目： イントロダクション（要点：導入と講義の視点）</p> <p>2 回目： 新興国市場についての概説（要点：新潟県立大学北東アジア研究所新井教授による概説）</p> <p>第 2 部（3 回目から 5 回目）平島健 尾畑酒造株式会社 代表取締役社長 「日本酒の海外輸出（仮）」</p> <p>第 3 部（6 回目から 8 回目）吉田至夫 株式会社新潟クボタ 代表取締役会長 「モンゴル市場進出（仮）」</p> <p>第 4 部（9 回目から 11 回目）堀部宏幸 亀田製菓株式会社 執行取締役 海外事業部長 「海外事業（仮）」</p> <p>第 5 部（12 回目から 14 回目）高橋克郎 愛宕商事(株) 代表取締役 「旧 CIS 圏関係のビジネス（仮）」</p> <p>第 6 部 総括</p> <p>第 15 回：要点：マクロ経済の視点から対内直接投資が新興国経済にどのような影響を及ぼすのか、</p>				

先進国の企業の視点から、なぜ新興国に進出するのかを概観し、まとめとする。

<講義の進め方>

○第1部は、本講義の導入部分として、担当教員及びゲストスピーカーの講義を聞き、クラス討議を実施する。担当教員、岸田教授（1回目）と富山教授（2回目）。

○第2部から第5部まで、各1週目はゲストスピーカーによる講演を、受講者各々の問題意識をもって聞き、必要に応じて質疑応答をおこなう。

各2週目は担当教員（第2部：一守教授、第3部：大塚教授、第4部：里見教授、第5部：岸田教授）のコーディネートにより、前週の講演内容を踏まえて、各国のビジネス環境で地域企業が取り組んでいる課題をケースとして、受講者各々の問題意識に基づくグループ討議を実施する。

各3週目は前週のグループ討議の結果の発表をおこない、さらに発表内容にかかるクラス討議を実施する。

○第6部は総括。担当教員（里見教授）による概説確認後、受講者による討議を実施する。

<事前事後学修内容>

詳細は講義回ごとに指示する。以下は想定される事前学習である。

各部第1週目：各ゲストスピーカーのテーマに関連し、各自の問題意識で可能な調査をしておくこと。

各部第2週目：ゲストスピーカー講演後に担当教員から出される課題を熟考し議論に備えること。

各部第3週目：第2週目のグループでの議論をまとめ、発表できるように準備をすること。

<予習・復習時間>

各回の予習・復習には計4時間相当かかると想定される。

<教科書及び教材>

必要に応じ、各回担当教員から指示/配布する。

<参考書>

必要に応じ、各回担当教員から指示する。

<成績評価方法>

各部のレポート15% × 4回、期末レポート20%、クラス貢献20%

欠席6回以上は成績評価しない。

<課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法>

授業のTeamsなどを通じて行う。

<履修条件>

無し

<ディプロマポリシーとの関連>

アントレプレナーシップ発揮に必要な専門的かつ実践的知識の学修に該当

<録画映像の視聴> 可

<オフィスアワー>

必要に応じ、総括担当教員か各部の担当教員にメールで連絡をとること

<その他>

特になし